

しょうなん茅ヶ崎災害ボランティア「TAJ」の活動を
リビング編集部員がレポート

人と人との交流・友情が復興への力に



▲TAJらボランティアと訪れた南三陸町戸倉地区の人々

東日本大震災で被災した宮城県南三陸町戸倉地区を支援し、交流を続けるしょうなん茅ヶ崎災害ボランティア「TAJ(タージ)」がこの夏、現地から41人を茅ヶ崎へ招待し、交流会を開催しました。はるばる訪れた人の中には、昨年リビング編集部員が現地に同行し、取材した人の姿もありました。湘南での笑顔の交流を紹介します。

8月3日、茅ヶ崎・柳島キャンプ場で交流会「南三陸から茅ヶ崎へ」笑顔の夏再会」が行われました。宮城県南三陸町戸倉地区を支援するボラ

ンティア団体・TAJのメンバーら約100人がバーベキューやステージイベントなどを準備。同地区から41人を迎え、互いの再会を喜びました。

貴裕さんは「会えてうれ

しい。交互に行き来し、まちとまちのつながりに

きたらと思えます」と、笑顔を見せていました。その後、参加者たちは

昨夏同地区を訪れ、仮設に住む人々との交流イベントを企画・開催した茅ヶ崎の高校生17人も現地の高校生6人と再会。同地区の高校2年・三浦

南三陸町からの参加者の中には、昨年現地でリビング新聞が取材し、紙面に登場してくれた人の姿もありました。

津波に巻き込まれた体験を語ってくれた漁師・三浦勝夫さんは、「漁業のまちですが、船なし、後継者なしで、釣り船は少ない状態です」と、まだまだ厳しい現状を話します。しかし、「震災前

と同じ船を6月に造りました」と懸命に前に進もうとしています。「ホテル観洋」の語り部バスでまちを案内してくれた渡邊陽介さんは、「高台移転の話が出ていますがなかなか進まず、家を建てるか迷っています。でも、娘は3歳にも震災後に生まれた息子も1歳になりました」と少しほっとした様子も。TAJの活動詳細や参加希望者はウェブで。
<http://taj2011.com>



▶茅ヶ崎の高校生・菊池モアナさん(右)と笑顔で再会の握手をする三浦貴裕さん



◀「今後なお一層の支援・ご協力を」と呼びかけた三浦さん



▼TAJメンバーに囲まれ、話を弾ませる渡邊さん親子